

新庁舎建設だより 9

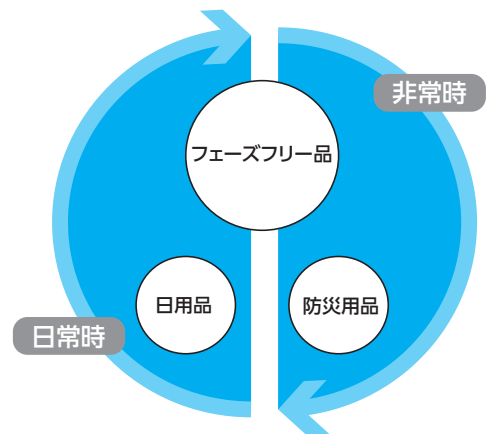
南九州市新庁舎情報 #3 フェーズフリーについて

新庁舎建設事業では、基本理念・方針の1つ「地域の安心・安全を支える防災拠点となる庁舎」に向けた取組みとして、「フェーズフリー」の考え方を取り入れています。今回の新庁舎建設だよりでは、「フェーズフリー」についてお伝えします。

①フェーズフリーとは？

身のまわりにあるモノやサービスを、日常時はもちろん、非常時にも役立つようにデザインしようという考え方。

いつも使っているものがもしもにも使える、もしもに役立つものがいつもにも活用される視点



②フェーズフリー5原則

フェーズフリーには、目指す方向性を簡潔に伝える5つの原則があります。

01 常活性

- ・日常時はもちろん、非常時など、どのような状況においても快適に活用することができること。日常時の価値をそのまま発揮する場合もあれば、日常時とは異なる非常時ならではの価値を発揮する場合もある。
- ・例 PHV車（プラグインハイブリッド車）

02 日常性

- ・ふだんの暮らしの中で、その商品やサービスを心地よく、快適に活用することができること。生活の質を向上させる役割を持つもの。
- ・例 耐水・耐候性ふせん、水に強いボールペン

03 直感性

- ・操作方法や使い方、また消耗・交換時期などが老若男女に分かりやすいこと。誰にも使いやすくして利用しやすいもの。
- ・例 目盛り付き紙コップ

04 触発性

- ・フェーズフリーな商品・サービスを通して、さまざまな気づきをもたらすこと。多くの人に安全や安心に関する意識を提起するもの。
- ・例 インターナビ（通信機能付きナビゲーション）、ラジオ

05 普及性

- ・安心で快適な社会をつくるために、誰でも気軽に参加・活用ができること。広く普及していきやすいもの。
- ・例 非常時に避難所などとして利用できる施設

③新庁舎における取り組み

平常時の庁舎施設が災害時などにおいても有効に機能するように計画しています。

災害対策本部の設置

平常時は会議室で使用する部屋を、災害発生時には、情報収集と迅速かつ的確な指揮命令機能を発揮する災害対策本部に転用可能な配置とします。



※イメージ図

イベント・防災エリア

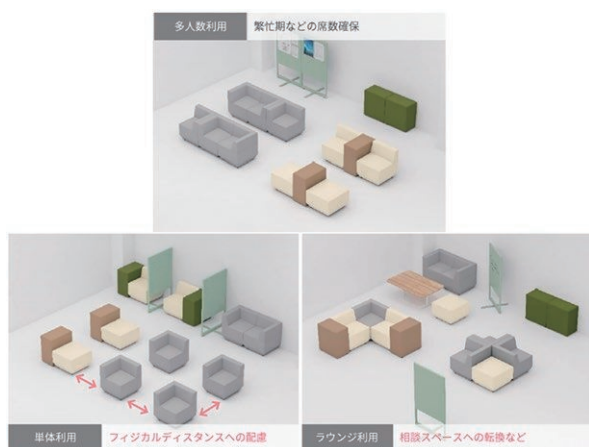
平常時は市民の多目的利用やイベントなどで活用し、災害発生時には、来庁者や近隣住民、職員の一時的な緊急避難場所として活用できるよう計画します。



※イメージ図

庁舎空間づくり

庁舎内の執務スペースや会議室、待合ロビーにもフェーズフリーの考えを取り入れ、臨時窓口の対応など汎用性の高いスペースの使い方を計画します。



いつも

- ・あらゆる利用者が安心して利用できるユニバーサルデザイン
- ・プライバシーへの配慮など、相談しやすい環境づくり
- ・ICTを活用した申請、相談スタイルの導入

もしも

- ・臨時窓口の設置
- ・大規模災害発生時の避難スペースや物資確保スペース

これからも

- ・自治体DXに伴う窓口数変化や対応スタイル変化への対応
- ・共創活動の活発化

南九州市新庁舎は「地域の安心・安全を支える防災拠点となる庁舎」を目指します！